

「大阿蘇青少年ボランティアリーダー塾」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 ボランティア養成研修を通して、青少年教育施設におけるボランティア活動の基礎を培い、ボランティアとしての態度や能力を育成する。
- (2) 期 日 平成30年5月12日(土)～13日(日) 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 39名(大学生30名・高校生8名・一般1名)
- (5) 講 師 NPO法人田舎のヒロインズ理事 藤原美里 氏
WakuWaku OFFICE あそBe隊代表 薄井良文 氏
高田短期大学子ども学科教授 山口昌澄 氏
- (6) 担当職員 山下正晃(企画指導専門職) 尾家義隆(企画指導専門職)
松元延行(事業推進係長) 前田夢依(事業推進係員)
野尻明美(事業支援室専門職員)
- (7) 選抜ボランティア 茶園知行(熊本大学3年) 木村優成(熊本大学3年)
田中聖美(九州ルーテル学院大学1年) 古川真帆(九州ルーテル学院大学2年)
- (8) 内 容 機構が定める「ボランティア養成共通カリキュラム(13時間)」に基づき、先輩ボランティアが企画・運営するワークショップや阿蘇の特性を生かした体験活動、体験活動時の安全管理の研修を実施した。

2 成果と課題

(1) 成 果

- 所内ウォークラリーや野外調理など体験を通して内容を理解できるように演習を多く取り入れたことで参加者が積極的に参加することができ、高い満足度を得ることができた。
- 講義や演習の中でグループ活動をとおして、参加者同士が交流を深めようとする姿を多く見ることができた。
- 「ボランティアとしての幅が広がった。これまでと違った形でのボランティア活動を行いたい。」「今後のボランティア活動の際に、学んだことを生かしたい。」などの感想があり、参加者のボランティア活動への意欲を高めることができた。
- 運営ボランティアがプログラムの企画・運営について自主的・計画的に準備をしたことで、自分たちの活動に自信を持つことができ、今後の自主企画事業への意欲が高まった。
- 熊本県、大分県の大学を直接訪問し広報することで、定員を超える参加者を確保することができた。

(2) 課 題

- 鉄道やバスなどの復旧にはまだ時間がかかるため、本事業及び今後の教育事業のボランティアが参加するための送迎などの支援を充実させる必要がある。
- 今回の事業における運営ボランティアの参加数が少なかった。今後様々な事業で自主企画・運営等を行うことができるボランティアの育成を強化する必要がある。
- 野外調理時の服装が適切でない参加者が見られた。募集段階や参加確認を行う際に周知を徹底する。
- 自主企画事業や今年度の事業内容についての案内をできるだけ早い段階で行い、参加者のボランティア活動への意欲を維持し、今後のボランティア活動につながるようにする。

3 事業の様子



開会式の様子



演習「阿蘇青少年交流の家を知ろう」



講義「ボランティア活動の実際」



野外調理（ハンバーグカレー作り）



講義「ボランティア活動の魅力」



講義「青少年教育の理解」



演習「安全管理について学ぼう」



閉会式の様子